

のびやかに 学び合い 助け合える 名森っ子

児童の実態

- 相手の考えと自分の考えを比べて聞いたり、相手の考えと関わらせて話したりできるようになってきた。
- 自分の既有知識や生活経験と学習内容を結び付けて考え、具体的に話す力に弱さがある。
- 言葉の意味を捉えたり、言い換えたりして語彙を獲得してきたが、表現することに課題がみられる。

願う姿

- 言語能力を身に付け、場面や状況に応じて活用することができる。
- 主体的な態度で言語活動に取り組み、目的や意図に応じて自分の思いや考えを効果的に表現できる。
- 対話を通して、自分の考えの中に仲間の考えを取り入れたり、自分の考えを見直したりできる。
- 発達段階に応じて語彙量を増やし、話や文章の中で適切に使うことができる。

町の方針と重点

一人一人に「生きる力」を育む指導の充実
基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力、判断力、表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。

国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
(2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

研究主題

自分の思いや考えをもち、生き生きと伝え合う子の育成
～主体的に学び合い、言語能力を高めることができる指導方法の工夫を通して～

研究仮説

- ①付きたい力を明確にし、児童が主体的に学び合うことのできる言語活動を位置付けた単元指導計画を作成し、指導することで、意欲的に取り組み、学びを生かそうとする児童を育成することができる。
- ②目的を明確にし、協働的に学び合う場を設定すれば、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる児童を育成することができる。
- ③教育活動全体の中で、言葉の力を高めるための活動を仕組み、言語環境を整備すれば、自分の考えを表現することができる児童を育成することができる。

研究内容 1

学ぶ必然性があり、日常生活につながる力を育む指導計画の工夫

- (1)単元・単位時間で付きたい力の明確化と適切な言語活動の位置付け
- (2)主体的な学びにつながる指導計画の工夫
 - ・学習の見通しと意欲をもつ単元導入の工夫
 - ・高まりを実感できる終末の位置付けと実践的に使える場の設定

研究内容 2

「主体的で深い学び」を実現するための指導・援助・評価の工夫

- (1)自分の考えを広げ、深めるための交流活動の工夫
 - ・ねらいや目的に合わせた意図的な交流活動
- (2)学習状況に基づいた指導援助の工夫
 - ・実態把握と、個に応じた支援
- (3)自己の変容を自覚し、学びの実感をもてる評価の工夫

研究内容 3

言葉の力を高める言語環境

- (1)自分の考えを表現する力を高める日常的な活動の充実
 - ・「言葉の宝箱」(教科書巻末語彙集)を活用した授業での帯活動や家庭学習、帰りの会(よさ見つけ)
- (2)本に親しむ活動の充実
 - ・朝活動による読書タイム、週末の読書課題、ビブリオトークへの参加(年2回)図書室や学級文庫による図書コーナーの充実

授業研究部会